

○登場人物

園田ミドリ（チューボーくらぶ新メンバー・主婦）

徳永コウスケ（チューボーくらぶ・主夫・脱原発）

雨宮シオリ（チューボーくらぶ・主婦・護憲）

桃山カリン（チューボーくらぶ・主婦・海外旅行好き）

木下ユウコ（チューボーくらぶ・中学教師）

刑事 1

刑事 2

第一場

警察署の取調室。
真ん中に机、その両サイドにイスが一脚ずつ。
刑事1と主婦・園田ミドリが出てくる。

刑事1 すみませんねえ。お忙しいところ。

園田 いえいえ……。

刑事1 緊張されてますか？

園田 ええ、まあ、なんか、こういう事情聴取っていうのは初めてなもので。

刑事1 そうですか。

園田 刑事ドラマみたいですねえ……。

刑事1 まあ、任意の聴取ですから、あまり堅くならずリラックスして……。

園田 はあ……。

刑事1 どうぞ、おかけ下さい。

園田 あつ、失礼いたします。

園田、椅子に腰かける。
刑事も向かいに腰かける。

刑事1 今日、お越し頂いただいたのはですね。

園田 はい。

刑事1 園田さんが入られているキョーボーくらぶについてなんですけどね。

園田 あつ、はい。

刑事1 それは、どういったことをするクラブなんですかね？

園田 ……ああー、まあ、お料理のサークルですけど。

刑事1 具体的にはどういった。

園田 ああー……まあ、みんなで集まって、お料理つくって、それ試食して、最後にみんなで採点したりとか……。

刑事1 採点？

園田 いや、あの、「星二つ！」とか。

刑事1 ああー……お料理以外では、何かありませんか？

園田 お料理以外？

刑事1 はい。料理をつくる、その本来の目的以外に、何か、別の……。

園田 ああー、まあ、皆さんとお茶したりとか、おしゃべりしたり、たまにピクニックとか、あつ、この間は花見もやりましたけど。

刑事1 花見……。

園田 はい。

刑事1 それは、お弁当とお酒を持ってですか？

園田 ああ、まあ……。

刑事1 例えば、地図とか、双眼鏡とかは。

園田 いや、すぐ近くの公園なんで、地図なくても分かりますから。

刑事1 ああ、そうですか。

園田 はい。

刑事1 あと他には。

園田 えっ？

刑事1 料理や花見の他に、何かありませんかね。

園田 他ですか？

刑事1 はい。何でもいいですよ。些細なことでも。

園田 まあ、うちは最近越してきたばかりなんで、いろいろと分からないこと教えていただいたりとか、あと、子供のことで相談乗っていたりとか。皆さん、とても親切な方々なので、いろいろと助けられていますけど。

刑事1 ほほう……親切ねえ……。

園田 はい。こんなヨソ者の私に、ものすごく親身になって接して下さいます。

刑事1 何か、他のメンバーの方に、誘われたりとか、そういうことはないですかね？

園田 誘われる？

刑事1 はい。例えば、何かの集まりだとか。

園田 集まり？

刑事1 はい。

園田 それは、どんな？

刑事 1 少しマジメな、社会問題とか。

園田 社会問題……。

刑事 1 例えば、原発のこととか。教育とか、憲法とか、あるいは平和についてとか。

園田 ああー、まあ、中にはね、そういうのに関心お持ちの方もいらっしゃるよ。うなので、そういうチラシとかいただいたりすることはありますけど、でも、私はちよつとそういうのは疎いものですから……。

刑事 1 はあ……。

園田 それが何か……というか、なぜ、私はここに呼ばれたんでしょうか。私、何かしましたか？ まったく、身に覚えがないんですけど。

刑事 1 いやいや、園田さんが直接、というわけではないんですけどね。

園田 私ではない？

刑事 1 ええ。

園田 つてことは……。

刑事 1 ちよつと、今の段階では、ここだけの話にしておいていただきたいんですけど。

園田 はい。

刑事 1 実はですねえ、園田さんのいらっしゃるチューボーくらぶの中にですね。

園田 はい。

刑事 1 テロリストが潜んでいる可能性があるんです。

園田 テロリスト？

刑事 1 それも一人ではなく、少なくとも二人以上。

園田 ええー……テロリストって……でも、そんな、皆さん、普通の主婦の方ですし、あつ、一人だけ男性の方いらっしゃいますけど、皆さん、そんな、テロリストだなんて……

刑事 1 まあ、表向きは平穏な料理サークルを装ってますけどね、実際は、テロの実行を目的とした組織的犯罪集団である可能性があるんです。

園田 まさか……。

刑事 1 まあ、なかなか信じ難いことだとは思いますが、一般市民の方からの

通報がありましたね、今まさに捜査段階なんですけど、この間にも、様々な裏付けとなる状況証拠が出てきておりまして……。

園田 ええー……それ、本当ですか？

刑事1 ウソなんて言っていてどうするんですか。

園田 ……。

刑事1 このままだと、園田さんもその犯罪集団の一員、テロリストの仲間ってことになってしまいませんかえ……。

園田 えっ……そんな！ 私、テロリストなんかじゃありません！ 私は、ただの料理サークルだと思って、そう思っただけですから……私は違います！

刑事1 まあ、それは今後の捜査次第で、徐々に明らかになってくると思います
が、さしあたって、園田さんこと、念のため、いろいろ調べさせてもらいま
してね。

園田 えっ？

刑事1 その過程で、こんな通信記録が出てきましたねえ。

園田 えっ？

刑事1、通信記録の書類を園田に見せる。

園田 ！

刑事1 これ、このメールのやりとり、ご記憶にありますよね。

園田 な、なんで……なんで、こんな……。

刑事1 これ、旦那さんに見られたらマズイんじゃないですかねえ？

園田 なんでこんなもの！ プライバシーの侵害じゃないですか！

刑事1 いやいや……これは捜査の一環ですから。公益及び公の秩序を守るため
に適正に行われた合法的な通信傍受ですから、違法性は一切ありません。

園田 だから……。

刑事1 何もこちらは、このメールをどうにかしようとか、そんなことは思っ
て
ませんよ。

園田 ホントですか？

刑事 1 ええ、まあ、この犯罪集団の活動とは関係のない、園田さんのプライベートな問題ですからねえ。

園田 はあ……。

刑事 1 ただ、その代わりに、ちよつとご協力いただきたいなど。

園田 協力？

刑事 1 テロを未然に防ぐために、チューボークラブの内部の様子を我々にご報告いただきたいなど。

園田 ええー……。

刑事 1 あなたの力で、テロが防げるかもしれない。人の命が救えるかもしれないんですよ。

園田 はあ……。

第二場

明かり変化。

園田の証言。

その間、刑事は捌ける。

園田 こうして私は、半ば強引に、警察の捜査に協力させられることになりました。……あまり気乗りはしなかったんですけど、あのメールを旦那に見られたら……って……そう思ったら……。えっ？ 中身ですか？ メールの中身？ それはちよつと……いやあの、犯罪とかそんなじゃないんですよ。誰だって、そういう知られたくない秘密ってあるじゃないですか。とにかく、その時の私は、メールのことで頭がいっぱいで……。その日は、ちょうど例のチューボークラブの活動日で、週一回、毎週土曜の昼に、近所にある地域センターの調理室で行われるんですけど……そこにメンバーが集まって来まして……。

続きをどうつづぞ、といった感じの手振りをして、園田は去る。

第三場

明かり変化。
地域センターの調理室。
真ん中にテーブル。その周りにイスが数脚。
料理サークル「チューボーくらぶ」の活動日。
メンバーの徳永コウスケが出てきて、エプロン姿でキッチンを拭いたりしている。

同じくメンバーの雨宮シオリがやって来る。

雨宮 あつ、徳永さん、お久しぶりじゃないですか。

徳永 ああ、雨宮さん。ご無沙汰してます。

雨宮 あつ、そう言えば、ニューヨークでしたよね？ どうでした？

徳永 いやあ……実は私、海外初めてだったんでねえ。

雨宮 そうなんですか？

徳永 カミサンにくつついて歩ってただけで……。

雨宮 へえー……でも、奥さん凄いですよねー。それで徳永さんのこと養ってるわけだから。

徳永 まあ、その分、私がねえ、家のこと全部やりますからねえ。

雨宮 エライですよねえ。

徳永 いやいやいや……全然ですよ、しょっちゅう、怒られてますから。味が濃すぎるとか、コクが足りないとか。旨みがないとかねえ

雨宮 へえー……でも、こうやってお料理サークル通って、一生懸命努力されて、涙ぐましいですよねえ。

徳永 いやいやいや……まだまだ全然！

雨宮 うちの夫にも見せてやりたいですよ。ホント、料理とか、何もできないんですから。

メンバーの桃山カリンがやって来る。

桃山 こんにちは。

二人 あつ、桃山さん、こんにちは。

桃山 あら、徳永さん、ご無沙汰じゃないですか？

徳永 ええ、三週間ぶりですね

桃山 そっか、そっか、ニューヨーク！

徳永 ええ、そうですそうです。

桃山 どうでした？

徳永 ええ、もう、海外初めてだったんで。

桃山 あらそう、意外！ どの辺行かれたんですか？

徳永 （ニューヨークの有名な場所などを挙げる）

桃山 あら、そうなんですかあ！ 偶然！ 私もねえ、先月そこ行っただけです

よ！

徳永 あつ、そうでしたかあ！

桃山 なーんだあ、一ヶ月遅れで行けば、現地で徳永さんにお会いできたのに

……。

徳永 ああ……そうですねえ

桃山 あつ、そうそう（カバンの中から箱を取り出し）……これ、一昨日までパ
リに行ってましてね。○○○の○○○っていうすごい有名なチョコレートなん
で、よければ……。

徳永 あつ、ありがとうございます。

雨宮 いただきます。

徳永 あつ！ すみません、私、おみやげとか……うっかりしてまして……。

桃山 いえいえいえ……そんな気になさらないで。

雨宮 まあ、お仕事で行かれたわけですからね。

徳永 まあ、私は仕事というかねえ、ただ単にくつついてただけなんですけど
ね。

雨宮 でも、奥さんのお仕事に同行されたわけですから。

桃山 そうですよ。

雨宮 全然、気になさらないで。

徳永 はあ……。

桃山 まあでも、私も仕事と言えば、仕事でしたけどねえ。

徳永 ……。

桃山 でも、初めての海外で、不慣れでいらしたわけでしょう。いいんです、いいんです、お気持ちだけで。

徳永 はあ……。

園田がやって来る。

園田 あ、遅くなりました。

一同 あっ、園田さん、来た来た。

園田 すみません。

雨宮 待ってましたよ。

園田 すみません。ちよつと前の予定が伸びてしまいました……。

桃山 大丈夫ですか？ なんだか、少しお顔の色がすぐれないみたいですが……。

徳永 あっ、確かに。

園田 そうですか？

雨宮 お掛けになったらどうです？

園田 いや、大丈夫ですけど。

雨宮 まあまあ……。

園田 はあ……すみません。（イスに腰掛ける）

桃山 あら？ 今日これだけですか？ 木下さんは？

雨宮 あっ、そう言えば……。

徳永 まだ見てないですね。

雨宮 珍しいですねえ。

桃山 今日はビーフストログノフだから、絶対来るって言ってたのに。

徳永 ああ、言っていましたね、言っていましたね。

雨宮 っていうか、木下さんですよ、今日の買い出し当番。

桃山 あっ、そうそう、食材！ 木下さん来ないと、作れないわよ。ビーフスト

ログノフ。

徳永 なんか、あったんですかねえ……。

桃山 連絡とかってないんですか？

雨宮 いやー特には……

徳永 ないですねえ

一同、各々の携帯などを確認する。

徳永 ダメです……圏外です。電話。

桃山 圏外？

雨宮 まあ、もう少し待ってみますか。

一同 そうですね。

桃山 あっ、そうそう（カバンの中から箱を取り出し）……これ、一昨日までパ
リに行ってましてね。〇〇〇の〇〇〇〇っていうすごい有名なチョコレートなん
で、よければ……。

園田 あっ、ありがとうございます。

雨宮 あっ、そうそう（勉強会のビラを取りだし、みんなに手渡しながら）……
これ。今週末なんですけどね、憲法学習会。

徳永 ああ。

雨宮 変えられてしまった憲法、変えられてしまった九条を取り戻す！ そのた
めにね、ぜひ参加していただきたいと思います。

徳永 ええ、ぜひ行かせていただきますよ。

雨宮 園田さんも、来られるでしょ。

園田 えっ？ 私ですか？

雨宮 参加したいって、言っていましたよね？

園田 ああ……まあ、時間とれましたら……。

雨宮 ぜひ！ お願いします。ホント、大事な学習会ですから。

徳永 あっ、そうそう（集会のビラを取りだし、みんなに手渡しながら）……こ
れは来週なんですけどね、脱原発の集いがあるんで、これもぜひお願いします。

桃山 あっ、そうそう（カバンの中からチラシを取り出し）……これ、私も今月
末に〇〇〇〇の発表会がありまして、お時間あればぜひ！

雨宮 あっ、そうそう（「9」の形をしたキーホルダーを取り出し）……これ、九
条ホルダー。手作りですよ、手作り！ これ、皆さんに差し上げますのでね、
ぜひ、カバンとかにつけていただいて、憲法取り戻すぞ、九条取り戻すぞって、

意思表示していただいて。

徳永 あっ、そうそう(ステッカーを取りだし、みんなに手渡しながら)……私もね、これ、脱原発のステッカー。作ったんで、よろしければ……。再稼働反対！ってね。

桃山 あっ、そうそう(カバンの中からビラを取り出し)……これもついでに、来月なんですけど、うちの弟がやってる劇団の舞台がありまして、お時間あればぜひ！

園田 はあ……。

桃山 それにしても、木下さん来られませんねえ。

一同 ああー……。

桃山 食材……。

一同 ああー……。

雨宮 何かあったのかしら。

一同 ああー……。

徳永 心配ですねえ。

雨宮 木下さん家って、この近くでしたよね？

徳永 ええ。

雨宮 私、ちよつと行ってきますね。

徳永 場所分かります？

雨宮 あれ？ どっちでしたっけ。

徳永 あっ、じゃあ僕行きますよ。

雨宮 えっ？ ああ、いいです、いいです、私行きますから。

徳永 いいですいいです、僕行きます。

雨宮 じゃあ、私も行きます。

雨宮と徳永、去る。

桃山 大丈夫ですか？ 体調。

園田 ああ、もう大丈夫です。

桃山 あまりご無理なさらないようにね。

園田 はあ……なんだかすみません。

桃山 園田さんって、行かれるんですか？ こういうの。

園田 えっ？

桃山 こういう学習会とか。

園田 いや、私は……こういうのにはちよつと疎いもので……。

桃山 どう思われます？ っていうの。

園田 えっ？ どうって……。

桃山 一応、お料理サークルじゃないですか、ここ。

園田 ああーまあ……はい。

桃山 あんまりねえ、こういう政治的なこと、持ち込むのはどうなのかなあつて……。

園田 はあ……。

桃山 こういうのついていけなくて、やめられた人もいますしねえ。

園田 あつ、そうなんですか？

桃山 だって、こんな関係ないビラとか渡されて、どんなサークル？って思われるじゃないですか。

園田 はあ……。

桃山 ここできて、もう十年になりますけど、最初はこういうんじゃないんですけどねえ。

園田 えっ、そうなんですか？

桃山 だんだんと、こういう系のお仲間が増えていって……こんなこと言うのも難ですけど、このままだと、こういう人たちに乗っ取られてしまうんじゃないかって……。

園田 ああー……。

桃山 私もね、実は何度かやめようと思ったことあつたんですけどね。

園田 えっ？ そうなんですか？

桃山 でも、それでやめたら、ますますあの人たち勢いづいて、勢力広げて、日本中がああいう、反日って言うんですか？ そういう人たちで溢れかえってしまつて、しまいには日本を滅ぼすんじゃないのかって、そう思うと、ここでや

めたら益々あの人たちの思う壺だつて……。

園田 はあー……。

桃山 それでなんとか、私もフラメンコとか、弟の劇とか、そういうチラシ配つたりして、微力ながらも必死に抵抗してるって、こういうわけなんですけどね。

園田 あつ、抵抗だつたんですね。

桃山 なんで私が、あんな貧乏劇団のチラシ恥ずかしげもなく配ってるか、分かってもらえますか？

園田 はあ……。

桃山 だから、園田さんも、絶対にやめないで下さいね。私と一緒に、このチューボーくらぶを健全なお料理サークルに戻すために、正常化するために、あの方々から日本を取り戻すために、一緒に頑張りましょう！

園田 はあ……。

徳永と雨宮が戻ってくる。

雨宮 戻りましたー。

徳永 いやー、いらっしやらなかったですねえ。木下さん。

桃山 ええー……。

雨宮 お母さまがいらしたんですけどねえ。一時間前に出られたつて。

桃山 一時間前……。

雨宮 どうされたのかしら……。

徳永 心配ですねえ……。

桃山 まさか、拉致されたりとか、北朝鮮に！

一同 ええっ？

桃山 あるいは暗殺されたりとか。北朝鮮に！

一同 暗殺？

桃山 もしくは、北朝鮮の大陸間弾道ミサイルにピンポイント爆撃されたりとか。

一同 (「ピンポイント過ぎるでしょー」「等のシニシニ」)

桃山 やだあ、どうしましょう……。

第四場

警察署の取調室。

刑事1と、机を挟んだ向かいにチューボーくらぶのメンバー・木下ユウコが座っている。

机の上には、食材の入ったエコバッグと包丁。

刑事1 (包丁をさして) これは何だ。

木下 包丁ですけど……。

刑事1 だなあ。これで何するつもりだったんだ。

木下 何って……料理ですけど。

刑事1 料理？

木下 はい。

刑事1 (机を叩き) しらばつくれんな！

木下 しらばつくてなにかいけません。お料理のサークルに向かうところだったんです。それで、家から包丁持参して、食材も買って……何もやましいことなにかありません。なのに、なんで銃刀法違反なんですか。私、何も悪いことなにかしてません！

刑事1 すつとぼけやがって……全部分かってんだからな！

木下 私が何をしたっていうんです。

刑事1 何を「した」じゃないんだよ。

木下 はっ？

刑事1 これから何を「する」かが問題なんだ！

木下 ですから、料理をするんですけど。

刑事1 違う！

木下 違います。私は料理するために、そのサークルに向かうために、この包丁を家から持ちだしたんです。

刑事1 そうじゃないだろ！

木下 そうなんですって！

刑事1 往生際が悪いなあ……素直に認めたらどうなんだ？

木下 何をですか？

刑事1 あんたは、その包丁で、仲間と共謀してテロを実行しようとしたんだ！

木下 はあ？

刑事1 素直に認める！

木下 なんて、なんで私が……。

刑事1 自分の胸に手当ててよく思い返してみな。

木下 全く身に覚えがありません。

刑事1 しらばつくれんな！ ちゃんと調べはついてるんだ！

木下 私は、ただ、料理をするために、そのために包丁を持ち歩いていただけです。

刑事1 ふん！ 何の料理をするつもりだったんだろうねえ。これで何を切り刻むつもりだったんだ！

木下 ですから、この食材です。

刑事1 （エコバッグの中から食材を取りだし）これは何だ。

木下 牛肉です。

刑事1 これは？

木下 玉ねぎです。

刑事1 これは？

木下 赤ワインです。

刑事1 これは？

木下 マッシュルームです。

刑事1 これで何しようとしたんだ！？

木下 ビーフストロガノフをつくらうとしました。

刑事1 ……ふーん……じゃあ、百歩譲って、料理サークルに行こうとしたことはそうなのかもしれない。だが、そこからが問題だ。

木下 はい？

刑事1 その料理サークル、チューボーくらぶって言うらしいなあ。

木下 はい。

刑事1 それがどういう団体か、ちゃんと調べはついてんだぞ！

木下 えっ？ どういう団体なんですか？

刑事1 ふん！ すつとぼけやがって！

木下 すつとぼけるって……じゃあ、どんなサークルだっていうんですか？

刑事1 お前らは、ある特定の政治思想をもって日本社会を攪乱し、治安を乱そうとする組織的犯罪行為集団なんだ、そうだろ！

木下 違います。

刑事1 違わない！ お前らは平穏な市民生活を脅かす犯罪者集団だ！ お前はテロリストだ！ 素直に認めろ！

木下 そんな……どうしたら、そんな普通のお料理サークルが、犯罪集団になるんです？ テロリストになるんです？

刑事1 告発があつたんだよ！

木下 告発？

刑事1 一般市民からの。料理サークルを隠れ蓑として、テロを計画してる団体があるってな。

木下 誤解です。

刑事1 じゃあ、これは何だ。

木下 ですから、料理をするための包丁です。

刑事1 違う！

木下 本当にそうなんですって、信じて下さい。

刑事1 いつまでもそうやってシラ切つてられると思うなよ。

木下 ……。

刑事1 絶対に、必ず、お前らの化けの皮を剥がしてやる！ ムシヨに送り込んでやるからな！ ハハハッ……。

木下 ……。

第五場

徳永の証言。

その間、木下と刑事は捌ける。

徳永 こうやって木下さんが警察の取り調べを受けていることなどつゆ知らず、私たちがチューボーくらぶのメンバーは、彼女の行方についてあれこれ勝手な詮索をしていました。

チューボーくらぶのメンバーが出てくる。

第六場

チューボーくらぶ。

雨宮 ホント、心配ですねえ。木下さん。

徳永 搜索願いとか出した方がいいですかねえ、警察に。

園田 警察……。

一同 ああー……。

桃山 まあでも、そういうことはご家族の方がねえ……。

一同 ああー……。

桃山 木下さんのお母さまは何て言っただらしたんですか？

雨宮 もうちよつと待ってみますって……。

桃山 そうなの？

徳永 なんか、他に手がかりないですかねえ。

雨宮 手がかり……。

徳永 例えば、急な予定を思い出して……仕事関係とか。それで、お料理どころじゃなくなっちゃったとか。

桃山 でもそれならそうで、連絡くらいあっても良さそうなものじゃないですか？

徳永 連絡するのを忘れるくらい、ものすごいトラブルとか、大至急の案件とか。

桃山 木下さんって、お仕事何されてるんですたっけ？

雨宮 中学の先生です。

桃山 ああー。

雨宮 そのモリカケ学園中等部の。

桃山 そうでした、そうでした。

徳永 それなら、生徒に何かあったんじゃないですかね。

一同 ああー！

徳永 例えば、怪我しちゃったりとか。それで病院にいるとか。

一同 ああー！

雨宮 それで圏外！

徳永 あるいは、生徒が問題起こして、警察沙汰になってしまってるとかね。

園田 警察！？

一同 ああー！

雨宮 熱血教師ですからねえ、木下さん。

桃山 だとしたら、今日はもう無理じゃないですか？ 材料ないですし。

一同 ああー……。

徳永 今から買い出し行くとか……。

雨宮 どうします？ やります？ 今日。

桃山 だけど、時間が……。

一同 ああー……。

徳永を残し、一同、去る。

徳永 というわけで、結局その日はそのままお流れとなり、木下さんが来られなかったのは、生徒の怪我か問題行動に違いないと、私たちはそう勝手に結論づけてそのまま解散したわけなんです。しかし、夜になっても木下さんは家に帰らず、しかも連絡もなく、そんなことはこれまで一度もなかったそうで、これは事件か何かに巻き込まれたんじゃないかと、そう思われた彼女のお母さんが警察に問い合わせたところ、なんと木下さんは警察にいたということが分かりました。生徒の問題行動などではありません。木下さん自身の問題行動？

何があつたか分かりませんが、木下さんは、逮捕されってしまったらしいんです。

再び、一回、戻ってくる。

桃山 逮捕って、どういうこと？

雨宮 何で捕まっちゃったの？ 木下さん。

徳永 ちよつとまだ、詳しいこと分からないらしいんですけどね。

雨宮 何があつたのから……。

桃山 万引きとか？

一同 万引き？

桃山 料理の食材よ。昨日の。

一同 ええー……

徳永 まさか……木下さん、そんなことしませんよ。

雨宮 そうですよ、そんな……お金ないわけじゃないでしょうし。第一、学校の先生ですよ。

桃山 でもほら、出来心っていうのがあるじゃないですか。

一同 ええー……。

桃山 それにほら、彼女、すごいマジメで繊細じゃないですか。神経質で。乙女座A型だし。

徳永 えっ、乙女座A型って、マジメで繊細なんですか？

桃山 あと神経質ね。

雨宮 そうなんですか？

徳永 うちのかみさんも乙女座A型なんですけど、すごい大雑把な性格してますけどね。

桃山 まあ、例えですよ、例えば。

一同 例えは？

桃山 土曜なのに、前の日に銀行から現金下ろし忘れて、それで、食材のお金用意できなくて……。

雨宮 だけど、土曜だって、ATMやってるじゃないですか。

桃山 手数料とられるでしょ。木下さん、手数料なんて1円たりとも払わないよ
うな、そんな性格の人だから。

徳永 でも、現金なくても、クレジットカードとかね。

雨宮 ああーそうですよ。そうですよ。

桃山 あの人は、クレジットカードなんて絶対持たないタイプですよ。

雨宮 そうなんですか？

徳永 だったらお母さんに借りるとかねえ。

雨宮 ああー……。

桃山 だから、人でもクレジットカードでも、お金を借りるっていうこと自体が、許せ
ないような、そんな人なのよ。

徳永 だけど、そんなキツチリした人が、万引きなんてします？

桃山 だから出来心なんですって……。

一同 んんん？

雨宮 もしかすると……。

一同 ん？

雨宮 木下さん、学校でいろいろ運動とかされてらっしゃるから、その関係とか。

桃山 運動？

雨宮 はい。

桃山 部活ですか？

雨宮 いえいえ……あのー、憲法についてとか。あと、教育勅語の問題とか

桃山 ああー。

徳永 あっ、義務化反対の。

雨宮 そうそうそう……。

桃山 そういふ運動ね……。

雨宮 そうですよ。

桃山 まあ、いつもビラとか配ってらっしゃいますものねえ。

雨宮 ええ。

徳永 えっ？ それで捕まっちゃったってことですか？

雨宮 本当にそうか分からないですけど……でも、木下さんとか、結構、熱心に

反対運動されてるみたいで、今度の入学式も絶対に阻止するって……。

桃山 えっ？ 入学式を阻止するんですか？

雨宮 いやいや……そうじゃなくて、入学式における教育勅語の誦読、それを阻止するんです。

桃山 えっ？ 何ですか？ それ。

徳永 あれですよ？ あの、入学式で在校生が新生に教育勅語を誦読して聞かせるって、そういうヤツですよ。

雨宮 そうですそうです。

徳永 今年からそうなったんですよ。

桃山 ああー、見ました見ました。何年前に「ひるおび」でやりましたよ。

「安倍ちゅちよう(首相)ガンバレ！ 安倍ちゅちよう(首相)ガンバレ！」
って、園児たちが一生懸命声張り上げて、可愛らしい……。

雨宮 そうじゃなくて……。

桃山 えっ？ 違うんですか？

徳永 ほら、そのあと園児たちが誦読してたヤツですよ。声揃えて。

桃山 ああー……。

園田 あっ、私、それ言えます。

一同 えっ？

園田 朕惟うに(ちんおもうに)、我が皇祖皇宗(わがこうそこうそう)、国を肇むること宏遠に(くにをはじむることこうえんに)、徳を樹つること深厚なり(とくをたつることしんこうなり)。我が臣民克く忠に(わがしんみんよくちゆうに)、克く孝に(よくこうに)、億兆心を一にして(おくちちゆうこころをいつにして)、世々厥の美を濟せるは(よよそのびをなせるは)、此れ我が国体の精華にして(これわがこくたいのせいかにして)、教育の淵源亦実に此に存す(きよういくのえんげんまだじつにここにそんす)。

一同 おおー……すごーい……。

雨宮 えっ？ なんで園田さん言えるんですか？

園田 いやあの、息子が幼稚園で教わってまして、家で練習してるの聞いてたら、自然に覚えてしまっ……。

桃山 いやあ、感心だわ。こんな難しいの。

園田 いえいえ……。

桃山 でも意味がさっぱり分からない。

園田 私もあまりよく分からないんですけど、まあ、親に孝行しろとか、兄弟夫婦は仲良くしろとか、そういう道徳的なことみたいですけど。

桃山 ああ、そういうことね。良いこと言ってるじゃない！

雨宮 とんでもないですよ！

桃山 はい？

雨宮 そういうもってもらいたいこと並べちゃいますけどね、一番言いたいのは、天皇のために命をかけて国を守って、そういうことなんですよ。

園田 えっ？ そうなんですか？

雨宮 そうですよ！

園田 知らなかった……。

雨宮 前の憲法だったら、絶対そんなの認められなかったんです。憲法変えられなければ……。

桃山 それ、何が問題なんですか？

雨宮 はい？

桃山 だって、国に何かあったら、それ守るために命をかけるのは日本人として当然じゃないですか？ ねえ園田さん？

園田 はあ……。

雨宮 そういう誤った教育で、戦前の日本は大きな犠牲を払ったんじゃないですか？

桃山 ですけど、だからといって、そういうの全否定することないんじゃないですか？ 親孝行、兄弟仲良く、良いことじゃないですか。

雨宮 それなら教育勅語じゃなくなっちゃって良いじゃないですか！

桃山 いやいや、そういう戦前からの由緒ある伝統あるものだからこそ、いいんじゃないですか。

雨宮 いやいや……由緒も伝統もありませんよ。

桃山 はい？

雨宮 明治から昭和までのたかだか数十年ですよ。

桃山 たかだかつてことはないでしょ、たかだかつて。

雨宮 そもそもねえ、教育勅語っていうのは、天皇から臣民への命令みたいなもんですよ。私たちは臣民なんかじゃありません。国民です。主権者です。

桃山 そんなことは分かっていますよ。

徳永 まあまあまあ……その教育勅語の話はさておいて、木下さんですよ、木下さん。

雨宮 そうですよ、そうですよ！

桃山 そうそう！ 一体どうしちゃったのかしらねえ。

雨宮 ちょっとあたし、モリカケ中に行つて来ます。何か手がかりとかあるかも
しれないんで。

一同 ああー……行つてらっしゃい。

雨宮、去る。

桃山 ああやつて上からモノ言われるから、ついつい言い返したくなっちゃいま
すよねえ。

徳永・園田 はあ……。

桃山 はあ……気をつけないと。お料理のサークルですからね。こら。

徳永・園田 はあ……。

桃山 まあだけど、阻止するとか、物騒ですよねえ……。

徳永・園田 ああ……。

桃山 やつぱりそういうので捕まったんですかねえ、木下さん。

徳永 ああー……だけど、入学式は明後日ですからねえ。そのことで捕まるって
いうのもねえ……。

徳永・園田 ああ……。

刑事2が登場。

刑事2 すみませーん。

一同 はい。

刑事2 チューボーくらぶの方でいらつしやいますかね？
一同 はい。

刑事2 （警察手帳を見せて）私、こういうものですが……。

桃山 えっ？ 警察の方？

刑事2 はい。

桃山 あつ、もしかして、木下さんのことですか？

刑事2 ああ……まあ、その関連で……。

桃山 なんて捕まってしまったんですか？

徳永 何をされたんですか？

桃山 万引きとかですか？

刑事2 万引き？

桃山 違うんですか？

刑事2 まあ捜査に差し障りがありますので……それより、こちらに雨宮シオリ
さんはいらつしやいますか？

桃山 雨宮さん？

刑事2 はい。

桃山 雨宮さんなら、さつき出られましたけど。

刑事2 えっ？ どちらに。

桃山 あのー……。

徳永 あつ、あのー、雨宮さんにどのような。

刑事2 ええ、まあ、ちょっと木下さんの件で、お伺いしたいことがあります
……どちらに行かれました？

徳永 いや……どこ行ったんですかねえ。

桃山 あつ、雨宮さんなら、モリカケ学園に行かれましたよ。

徳永・園田 えっ……

刑事2 モリカケ学園……。

桃山 はい。中等部に。

刑事2 ありがとうございます。

刑事2、去る。

徳永 えっ？　なんで、言っちゃったんですか？

桃山 えっ？　何を？

徳永 いや、雨宮さんの……。

桃山 あれ？　マズかった？

徳永 いや、マズかったっていうか……。

園田 もしかしたら、雨宮さんも警察に……。

桃山 えっ？　そういうこと？

徳永 いや、分かんないです、分かんないです。

桃山 えっ？　そういうこと？　えっ？　雨宮さんなんかしたの？　万引き？

徳永 ちよつと僕、見てきます。

徳永、去る。

桃山 ホント、何があったのかしら……。

園田 あのー……。

桃山 はい？

園田 私、ちよつと、ある人から聞いたんですけど……。

桃山 何を？

園田 ……あつ、でも、やっぱりいいです。

桃山 えっ？　何？　何？

園田 いや、いいです、いいです。

桃山 えっ？　何？　ちよつと気になる。

園田 やっぱり、いいです。

桃山 えっ？　ちよつと何ですか？　話して下さいよ。

園田 ……誰にも言わないですか？

桃山 ええ。もちろんですよ。

園田 ホント、ここだけの話にして下さいね。

桃山 はい。

園田 この、チューボーくらぶの中に……。

桃山 はい。

園田 テロリストが潜んでいるらしいんです。

桃山 テロリスト!?

園田 はい。

桃山 テロリストって……えっ？ テロリスト!?

園田 はい。

桃山 はあ？

園田 どうやら、テロリストがここを隠れ蓑として、それで密かにテロの実行を
計画してるって……。

桃山 ええー……それ誰よ、テロリストって。

園田 いや、それは分からないんですけど……でも、木下さん逮捕されたのって、
もしかすると、そういう関係なのかなって……。

桃山 えっ？ じゃあ、木下さん？ えっ？ 木下さんテロリスト？

園田 いやいや、まだそれはハッキリとは分からないんですけど……だけど、木
下さん、いろいろと運動とか、そういうのされているみたいだし……。

桃山 ああー、さっきの入学式阻止とかね。

園田 そそそ、そうです、そうです！ 教育勅語の。

桃山 だけど、そんなこと言ったら、雨宮さんだって……。

園田 ああー……。

桃山 九条九条憲法憲法、さっきだって、あんなムキになってたじゃない。

園田 そうなるとやっぱり、さっきの警察も、雨宮さんのこと……。

桃山 あっ……なるほど……。

園田 そのテロリストっていうのは、どうやら一人じゃなくて、何人もいるらし
くて……。

桃山 何人も？

園田 はい。

桃山 えっ？ ってことは……木下さんと雨宮さんと……徳永さんも？

園田 ええー……。

徳永、戻ってくる。

徳永 ダメですnee。

園田・桃山 ！

徳永 どうか、されました？

桃山 いえいえ……あつ、どうでした、雨宮さん。

徳永 それが入れなくて、校内に。

桃山 そうなんですか？

徳永 IDカードが必要みたいで。

桃山 ああ……。。

徳永 最近の学校はすごいですnee。セキュリティが。

桃山 まあnee、テロとかあったら困りますものnee。

徳永 まあ、そうですね。

桃山 このあたりにもいるらしいですからnee、テロリスト。

園田 ！

徳永 えっ？ テロリスト？

桃山 そうらしいですよ、気をつけた方がいいですよ。

徳永 えっ？ テロリストがいるんですか？

園田 あつ、あの、雨宮さん、大丈夫ですかnee。

桃山 そうよそうよ、雨宮さん！ ホント、心配ですよnee……。

徳永 事情聞かれるってことは、雨宮さんも何か関係あるんですかね？ 木下さ

んの件と。

桃山 実は、あたしたちもそれ気になってたんですよ。

徳永 あつ、そうですね。

桃山 nee、園田さん。

園田 えっ！

桃山 もしかすると、雨宮さんも、木下さんの件で、逮捕されるんじゃないのか

って……。

徳永 やっぱりそうですね？

桃山 つていうのは、ちょっと小耳に挟んだんですけどね。
徳永 あっ、はい。

園田の証言。

園田 桃山さんは、私が話した内容をほぼそっくりそのまま徳永さんに伝えました。ここだけの話って言ったのに！

元の会話に戻る。

徳永 テロリスト？

桃山 はい。

徳永 ここに？

桃山 ホント、ここだけの話にしておいて下さいよ。

徳永 ええ、もちろんです。

徳永と桃山は去る。
入れ替わりで、木下と刑事が出て来る。

園田 一方、その頃、警察署では木下さんの取り調べが続いていました。それは丸二日間、長時間に及ぶ大変過酷なものだったようです。

園田、去る。

第七場

警察の取り調べ室。
刑事1と木下。

刑事1 いい加減、認めたらどうなんだ？

木下 私はテロリストなんかじゃありません。

刑事1 じゃあ、この包丁は何なんだ！

木下 ですから……もう何遍も言ってるじゃないですか。この包丁で私が一体何

をしようとしたって言うんです？

刑事1 それはこっちが聞いてるんだ！

木下 本当に身に覚えがないんです。私が一体何をしようとしたっていうんです。お願いですから、分かるように詳しく説明して下さい！

刑事1 ……まったく、しょうがねえなあ……出血大サービスだからな！

木下 お願いします。

刑事1 あんた、中学の先生なんだろう。

木下 はい。

刑事1 モリカケ学園中等部、家庭科。吹奏楽部副顧問。

木下 はい。

刑事1 マジメで熱心な先生だって、なかなかの評判らしいじゃないか。表向きはな！

木下 ……。

刑事1 その裏で、どんなことしてるか……あんたのこと、いろいろ細かく調べさしてもらったよ。

木下 えっ？

刑事1 あんた、教育勅語に反対してるそうじゃないか。

木下 ……。

刑事1 どうなんだ！

木下 ええ、まあ。

刑事1 なんで反対なんだ？

木下 天皇のため、国のために命を賭けて戦えだなんて、そんなこと子供たちに教られません！ 主権在民に反します。憲法違反です。

刑事1 憲法違反？

木下 はい。

刑事1 あんた……新しい憲法の前文には、こう書いてあるだろ。(手帳を広げ)

「日本国民は国と郷土を誇りと気概をもって守り」……云々(でんでん)「……て！

木下 でんでん？ それ「うんぬん」じゃないですか？

刑事1 バカヤロー！ 「云々」と書いて、「でんでん」とも読む、そう閣議決定されたら！ 辞書にも載ってる！

木下 どの辞書ですか……。

刑事1 教師のクセにそんなことも分からないのか！

木下 そんなバカな……。

刑事1 まあ、そんなことはどうだっていいことだ。あんたらがどう憲法を解釈したって、公益及び公の秩序を害さない限り、それは自由でもんだ。ところが、あんたはその入学式における教育勅語の誦読を暴力的に阻止しようとした。そしてその目的で、同じ考えをもつ教員仲間、それからチューボーくらぶのメンバーらと共謀して、不当に職員室を占拠し、かつ校長・教頭・事務職員を監視しようとした。この包丁は、その実行のために準備されたものだろ！

木下 そんな事実はありません！

刑事1 あるんだ！

木下 ありません！

刑事1 ある！

木下 ありません！

刑事1 なぜ、ないと言い切れる？

木下 なぜって……確かに、私は教育勅語の誦読をやめさせようと、いろいろ活動しましたよ。ビラを配ったり、校長や教頭を説得したり。だけど、こんな包丁を使って脅したり傷つけたり……そんなこと考えたことなんてありません。

刑事1 いや、ある。

木下 ありません？

刑事1 あんたは、そういう風に考えたんだよ。

木下 考えてません！

刑事1 考えたんだ！

木下 なぜ、私の考えたことが分かるんです！ 心が分かるんですか？ 内面が分かるんです！

刑事1 証拠があるんだよ！

木下 証拠？ 私の心の証拠ですか？ それは私にしか分からないじゃないです

か！

刑事1 あんたの心を表した、客観的な状況証拠だよ。

木下 状況証拠？

刑事1 メールのやりとり、SNSの書き込み、それから電話、ちゃんと証拠は揃ってるんだ！

木下 ええっ？ まさか、私のメールとか、電話とか、そういうの調べたんですか？

刑事1 ああ、全部調べさしてもらったよ。

木下 なんで……なんで……なんでそんなことするんですか？ あなたに何の権

限があるんです！

刑事1 告発があっただよ。

木下 告発？

刑事1 しかも、内部からの。

木下 内部？

第八場

チューボーくらぶ。

桃山と徳永と園田。

徳永 じゃあ、木下さんと雨宮さんが、テロリスト？

桃山 っつて、園田さんが言うんですけど……。

園田 えっ？ 私ですか？

桃山 さっきそう言ったじゃないですか。

園田 いや……。

桃山 私は、こう一緒にお料理つくってるお仲間ですから、そういう人たちのこと、テロリストだなんて、ねえ……。

園田 私もそんな、決めつけたりしたわけじゃないんですよ。

桃山 だけどほら、皆さんよく配ってらっしゃるでしょ。ピラとか、あと、なん

か阻止するとか。

徳永 ああー……。

桃山 そうというのが、ねえ、疑われたりするんじゃないかって……。

徳永 えっ？ やっぱりそれで捕まったってことですか？

桃山 そういふことなのよね？ 園田さん。

園田 いや……それはまだ分かりませんが……。

桃山 でもどうやら、そういうんで、うちのサークルがテロ集団だって疑われてるみたいで……。

徳永 ヒドイですねえ。

桃山 ええ、ヒドイですよ。

徳永 そんなことされたら、市民運動とか、そういうの何もできないじゃないですか。

桃山 そうですよねえ……。

徳永 （脱原発のステッカー取りだして）こういうの配ったらテロリストってことですよんね？

桃山 あっ！ もしかすると、徳永さんも、それで警察に……。

徳永 えっ？ 僕も捕まるってことですか？

園田 ええっ！

徳永 僕もテロリストですか？

桃山 そういふこと？ 園田さん。

園田 いやあ……。

桃山 そういふことなんでしょ？

園田 まあ、そういうこともあり得るかなって……。

徳永 ええっ！？

桃山 ですからねえ、ちょっと私、思うんですけどねえ、あんまり、こういうビラとか配ったりすると、なんだか、いらぬ誤解を招くんじゃないかなって……
一応、お料理サークルですからねえ、ここ。ねえ、園田さん。

園田 ああ、まあ……。

徳永 だけど、もし、本当にそういう理由だけで木下さん捕まったんだとしたら、

これ冤罪ですよ！ 冤罪！

園田 冤罪！？

桃山 ああーそうですね、そうですね。

徳永 雨宮さんだって、捕まるかもしれませんよ。

園田 ああつ！

桃山 ああーまあ、テロリストはねえ……。

雨宮が戻ってくる。

雨宮 戻りました。

一同 あつ、雨宮さん！

雨宮 ダメでした。中入れませんでした。

徳永 良かった、無事で。

雨宮 えっ？

徳永 さつき警察の方がいらして。

雨宮 警察？

桃山 このあたりにテロリストが潜んでいるらしいって。

徳永・園田 えっ？

雨宮 テロリスト？

桃山 はい。

雨宮 ああ、そう言えば、モリカケ学園の前に警察の車、いっぱい止まってて

……。

一同 ええー……。

桃山 モリカケ学園にテロリストがいるってことかしら？

雨宮 ええー、そうなんですか？

徳永 いやあのー、その警察の方なんですけどね。

雨宮 はい。

徳永 雨宮さんのこと、捜してまして……。

雨宮 えっ？ あたし？

徳永 はい。

桃山 でも警察の方、テロリスト捜してるんですよ？
雨宮 えっ？ それって……。

徳永の証言。

徳永 まったく！ 桃山さんは余計なことしか言いません。話がこじれる一方で
したが、私はなんとか、今の状況を雨宮さんに伝えました。

元に戻る。

雨宮 えっ？ 私が？

徳永 その可能性があるってことです。

雨宮 そんな……私、捕まるようなことなんか何もしてませんよ。

徳永ですよええ。

雨宮 ただ、ちよっと会議に参加したり、プラカードつくるの手伝ったり、そう
いうのただけですから。

徳永なるほど。

桃山 それならねえ、逃げたり隠れたりしない方がいいですよ？ 逆に怪しま
れますからねえ……。

一同 ああ……。

桃山 私たちも、犯人隠匿罪で捕まるかもしれませんしねえ。

雨宮・園田 犯人って……。

徳永ですけど、木下さんみたいに逮捕されたりしませんかねえ。

桃山 だから逮捕される前に、さっきの刑事さん呼んで、ちゃんと説明した方が
いいんじゃないですか？

一同 ああ……。

刑事がやって来る。

刑事 じゃあ説明していただきましょうか。

一同 あっ……。

桃山 先ほどの……どうもご苦労様です。

刑事 雨宮シオリさんですね。

雨宮 はい。

刑事 暑までご同行願います。

雨宮 えっ？ 私が何をしたって言うんです！

刑事 詳しくは暑でうかがいますから。(腕を引っぱって) 行きましょう。

雨宮 (振りほどいて) ちよつと待ってください。私は何もしてません。

徳永 そうですよ、何かの誤解です！

刑事 誤解かどうか、それはあとでじっくりうかがいますよ。

雨宮 ちよつと待ってください。

刑事 いいから来て下さいよ！

雨宮 離して下さい！

刑事 来るんだって！

雨宮 離して下さい！

刑事 来いって！

雨宮 離して！

刑事 来いよ！

雨宮 やめて！

M 「世情」(中島みゆき)
スローモーシオンになる。

「3年B組金八先生」第2シリーズ第24話・生徒逮捕シーンの手垢にまみれたパロディ。

逃げる雨宮。

それを捕らえようとする刑事。

揉み合っている内に、刑事、その場にわざと倒れる。

いわゆる「転び公妨」。

刑事 イッテえー！

雨宮 だ、大丈夫ですか？

刑事 お前、今突き飛ばしただろ！

一同 えっ？

刑事 公務執行妨害だよ！公務執行妨害！

雨宮　　そ、そんな！

徳永　あんた、わざと倒れたじゃないですか！

刑事　午後三時五十五分、公務執行妨害で逮捕する！

雨宮　はい？

刑事　ほら来い！

雨宮　やめて！　離して！

刑事、雨宮を連行していく。
それを止めようと、徳永は追いかけていく。

第九場

園田の証言。

園田　こうして、雨宮さんは逮捕されてしまいました。公安警察お得意の転び公妨という、わざと転んで公務執行妨害で逮捕するというそういうやつです。ちなみに、それを止めに入った徳永さんも同じく公務執行妨害で逮捕されてしまいました。

ただのお料理サークルなのに、三人も逮捕者が出てしまいました。残されたのは私と桃山さんと、何人かの幽霊メンバー。ほぼ桃山さんとマンツーマン。うまくやっていけるのだろうか、私はわりとそっちの方に不安を感じていました。

桃山は去る。

園田　そうそう、肝心の木下さんですが、最初の拘留期限が迫る中、取り調べは重大な局面を迎えていました。

入れ替わりで木下と刑事。
園田、去る。

第十場

警察署の取調室。
刑事1と木下。

木下 内部の告発って、誰ですか、そんな告発……デタラメです！

刑事1 デタラメかどうか、それは調べなきゃ分からないだろ！ だから調べたんだよ！

木下 調べて、それで何か出てきたんですか？ 私がテロリストであるとかそんな証拠が出てきたんですか？

刑事1 そういう断片情報を積み重ねていけば、あんたがそういう組織的犯罪行為を仲間と共謀したっていうことは明らかなんだ！

木下 そんな強引な！ 私は犯罪者じゃありません。普通の市民です！ 一般人です！

刑事1 はあ？ 一般人かどうか判断するのは、あんたじゃないですか……よ！

木下 一般人は対象にならないって、そう言ってたじゃないですか……。

刑事1 あんたは一般人じゃない！ 一般人じゃないんだ！

木下 一般人です！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 往生際が悪いなあ……もし今、この場で共謀の罪を認めれば、自首したということにしてやってもいいんだぞ。

木下 はあ？

刑事1 そうすりゃあ、あんただけ、罪を免除してやることだってできるんだけどなあ

木下 そんな……やってもないこと、考えてもないことを認めるわけにはいきません！

刑事1 そんな意地張っていると、あとで後悔するぞ。今認めれば、今日中にも釈放してやることができるんだけどなあ……このまま否認続けていると、いつこ

こ出られるのかねえ。

木下 そんな……私は何も悪いことなんかしてません。それなのに、それなのに、
どうして……。

刑事1 お母さん、病気がちなんだろう？ 他に身寄りもなくて、誰が看病するん
だらうねえ。

木下 お願いします！ 出して下さい。私はテロリストなんかじゃないんです。

刑事1 だったら認める！ 自分のやろうとした罪を認めるんだ！

木下 ですから、ホント、全く身に覚えはないんです。

刑事1 覚えあるだろ！

木下 ありません！

刑事1 あるんだ！

木下 ありません！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 一般人じゃない！

木下 一般人です！

刑事1 これは何だ！？(猿とかチンパンジーとかのモノマネ)

木下 ……チンパンジーです。

刑事1 ゴリラだよ！

木下 もういやあ……。

刑事1 ふざけやがって！ そういう態度に出るなら、もう一つ、あんた個人が
犯した重大な罪について話してみようか。

木下 私個人の？

刑事1 ああ。

木下 重大な罪？

刑事1 LINEの通信記録、見させてもらったよ。

木下 ？

刑事1 コウキ君だっけ？

木下 ！

刑事1 中学二年生、十四歳だつて？

木下 えっ！

刑事1 そんな少年と、何の目的でホテルになんて入ったのかねえ。

木下 ……なんなんですか、それは……。

刑事1 そういう趣味があるらしいじゃないか。シヨタコンっていうのか？

木下 違います、それは、彼が、具合が悪くなったから、それで。

刑事1 具合が悪くなると、ホテルに連れ込むのか。十四歳のチューボー（中坊）

を。チューボーですよ！ チューボー！……チューボーですよ！

木下 それは……、入っただけで、何もやましいことはしてません！

刑事1 いけしやあしやあと……。

木下 そんな、何もなかったんです。無理矢理誘ってきたのはあの子なんですから。

刑事1 へえー……念のため、あんたがクラウド上に保存してる秘密の動画フォルダも調べさせてもらったよ。

木下 えっ！？

刑事1 決定的な証拠だねえ……。

木下 なんで？ どうやって？

刑事1 もうこの件に関してはねえ、逃げられないよ、先生。

木下 ……。

刑事1 マスコミはどう報じるかねえ。淫乱女家庭科教師。夜の調理実習、とかね。アハハハ……。

木下 ……。

刑事1 あんた、地位も職も失って、終わるよ、人生。お母さん、女手一つであんたのことで育ててきたんだろう。お母さんのこと、泣かせちゃ可愛そうだよ。

木下 お願いです！ そのことだけは！ それだけは！

刑事1 ほほう……これだけは明かさたくないと……。

木下 お願いします。それ以外のことなら、何でも、罪を被ります。ですから、

そのことだけは……どうか……お願いします！

刑事1 しょうがねえなあ……じゃあ、先生、例のモリカケ学園職員室占拠監禁計画について、片っ端から話してもらおうか。

木下 ……。

第十一場

同じく警察署の取調室（別室）。
机を挟んで刑事2と雨宮が向かい合って座っている。

刑事2 雨宮さんさあ、もう一度聞くけど、あなた本当にこの件については関わっていないと……。

雨宮 はい。まったく身に覚えはありません。

刑事2 だけどさあ、あなた、このLINEグループの中で、「了解です」って返信返してんじゃない。これ、合意したってことなんじゃないの？

雨宮 確かに、そう返信はしました。だけど、それが、その監禁の隠語だなんて、私はまったく知らなかったんです。

刑事2 知らなかったじゃ、済まされないんだよ。これ、客観的な証拠だよ。あんた、逃げらんないよ。

雨宮 そんな……私は、まったく無関係なんです。ただ、会合に参加したり、プラカード作ったりしただけで、そんな、共謀なんてしてません。お願いです。信じて下さい。

刑事1が入って来て、刑事2に耳打ちする。
それを聞いた刑事2の顔色が変わる。

刑事2 雨宮さん、残念なお知らせだがねえ……木下先生、自供したってよ。

雨宮 えっ？

刑事2 あなたとか、それから他のメンバーも、その計画について合意したって。

雨宮 はい？

刑事2 その合意した計画に基づいて、木下先生は包丁を家から持参したと。実行の準備をしたと。

雨宮 えっ？ 木下さんがそう言ったんですか？

刑事2 そうだよ。

雨宮 木下さんが、自分からそう言ったんですか？

刑事1 (机を叩いて) そうだって言ってるんだろ！

刑事2 (刑事1を制止して) まあまあまあ……。

雨宮 ちょっと待っててください。何かの間違いです。

刑事2 そういうわけで、今から逮捕状請求しますから。

雨宮 はっ？

刑事2 組織犯罪処罰法違反。素直に認めた方が身のためだよ。

刑事2、去る。

雨宮 (立ち上がり) ちょっと、待っててください！ 待って下さい！

刑事1 (雨宮を制止し) おとなしく座ってる！

雨宮、イスに座らせられる。

刑事1 こっからは任意の事情聴取なんかじゃねえからな。犯罪者の取り調べだ！

雨宮 そ、そんな……私は犯罪者じゃありません！ 何も悪いことなんかしてません！

刑事1 実際にしてなくても、しようとした！ それに合意した。それはもう、犯罪なんだよ。

雨宮 そんな……私は……私はやってません！

刑事1 アハハハ……。

第十二場

園田の証言。
刑事と雨宮は去る。

園田 こうして、モリカケ学園中等部職員室占拠監禁未遂事件は、モリカケ中の教師六名、チューボーくらぶのメンバー三名、計九名の逮捕者を出す事態となりました。しかし、決定的な証拠がなかったため、結局、九名とも不起訴となり、そのまま全員釈放されることとなりました。

二十日以上に及ぶ長期間の拘留で、何人かの先生は精神的に大きなダメージを受け、体調を崩し、休職・退職を余儀なくされたそうです。

警察の強引な捜査は、一部から批判を浴びましたが、捜査は適正に行われたと、警察はそう繰り返すばかりで、その妥当性が問われることはほとんどありませんでした。

園田は去る。
入れ替わりで徳永が出てくる。
徳永の証言。

徳永 結局、私もその監禁未遂事件で再逮捕され、当然まったく身に覚えはないので否認を貫いたところ、警察が握っていた私の浮気の証拠をカミさんにバラされて、散々な目に遭いました。離婚とか、そこまで至らなかったのはせめてもの救いでしたが……まあ自業自得ではありましたが……。

まあ、そんなこんなで、この騒動から数ヶ月が経ち、ようやく平穏を取り戻した私たちでしたが、この一件で、地域センターは出入り禁止となり、チューボーくらぶはそのまま空中分解となってしまいました。

そんなある日、桃山さんの呼びかけで、久々に銀座辺りでお食事会をしようということになり、私たちは再び顔を合わせるようになりました。待ち合わせ場所は有楽町の駅前でした。

第十三場

有楽町駅前。

徳永が待っている。

雨宮がやって来る。

雨宮 徳永さん！

徳永 ああーどうもどうも……。

雨宮 お久しぶり。

徳永 いやーご無沙汰してます。

雨宮 お元気でした？

徳永 ええ、元気です元気です。

雨宮 なんか、元に戻られましたね。体型。

徳永 あっ、そうですか。

雨宮 ほら、ねえ、あの時はすごいげっそりされて……。

徳永 ああー……まあ、あの時と比べればね。

雨宮 お料理も作られています？

徳永 ええ、あの、ありがとうございます。いろいろ裏技送っていただいちゃっ

て……。

雨宮 いえいえ。

徳永 すごい活用させていただいていますので。

雨宮 あらそう、良かった。

桃山がやって来る。

桃山 こんにちは。

二人 あっ、桃山さん、お久しぶり！

桃山 お元気でしたか？

雨宮・徳永 ええ。

雨宮 桃山さんもお変わりないみたいで。

桃山 ええ、おかげさまで。

雨宮 相変わらず、海外行かれてるんですか？

桃山 あっ、そうそう（カバンの中から箱を取り出し）……これ、一昨日までロンドンに行ってましてね。バッキンガム宮殿のバッキンガムっていうすごい有名なクッキーなんで、よろしければ……。

徳永 あっ、ありがとうございます。

雨宮 いただきます。

徳永 あっ！ すみません、私、おみやげ……。

雨宮・桃山 ああー……。

徳永 パリの……うっかりしてまして……。

桃山 いえいえいえ……そんな気になさらないで。

雨宮 そうですよ、お仕事で行かれたわけですし。

徳永 いやあの、今日お会いできるって分かってたんで、買ってはいたんですけどね、家に忘れてきてしまいました……ちよっと取りに行行って来ていいですか……。

雨宮・桃山 いやいや……いいですいいです。

徳永 いいですか？

雨宮 全然、気になさらないで。

桃山 そうですね。お気持ちだけで充分ですよ。

雨宮 また次の機会に、ねっ。

徳永 ホント、すみません。

雨宮・桃山 いえいえ。

園田がやって来る。

園田 あ、遅くなりました。

一同 あっ、園田さん！

園田 すみません。

雨宮 ご無沙汰してます。

園田 お久しぶりです。

桃山 あら、ちよっと痩せました？

徳永 あっ、確かに。

園田 そうですか？

雨宮 ええ。大丈夫ですか？ ちゃんと食べてます？

園田 ああー……いやあの……実は先月旦那と別れまして。

一同 えっ、そうなの？

園田 それで家出たもので、バタバタしてまして……。

一同 ええー……。

桃山 えっ？ 今どちらに？

園田 あっ、実家に戻りまして。八王子の。

桃山 八王子……ちよつと遠いわねえ。

雨宮 あれ？ お子様は？

園田 旦那の方に……。

一同 ええー……。

園田 私に原因があつたもので……。

一同 ああー……。

園田 すみません。なんか、ご報告が遅れまして。

一同 いえいえ……。

桃山 夫婦仲良くつて、息子さんと一緒に誦読してらしたのにねえ。

徳永 まあ……そんなこともありますよね。

雨宮 うん。今日は、何でも話聞きますから、ねっ、楽しみましょう。

徳永 そうですね、まあ、残念会ということ……。ねっ。

一同 ……。

徳永 そろそろ時間ですね？

桃山 あら？ あと、木下さんですよね？

雨宮 まだいらしてませんよね。

桃山 連絡とかってないんですか？

雨宮 いやー特には……。

徳永 ないですねえ。

園田 そうですねえ。

雨宮 まあ、もう少し待ってみますか。

一同 そうですね。そうですね。

桃山 あっ、そうそう（カバンの中から箱を取り出し）……これ、一昨日までロンドンに行ってましてね。バッキンガム宮殿のバッキンガムっていうすごい有名なクッキーなんで、よろしければ……。

園田 あっ、ありがとうございます。

雨宮 あっ、そうそう……（カバンの中からアクセサリを取りだし）私、最近、ネットショップ始めましてね。こういう手作りのアクセサリとか、そういうの扱ってまして、これ、サンプルなんで、よろしければ……。

一同 ああー。

徳永 あっ、そうそう……（カバンの中から本を取りだし）最近、うちのカミさんが本出しましてね。『長いモノへの正しい巻かれ方』っていう……ビジネス本なんですけど、これ良ければ……。

一同 ああー。いいんですか？

徳永 ええ、ええ。家にまだ百冊くらいあるもので……。

桃山 へえー……でも今日は脱原発とか、九条とかじゃないんですね。

雨宮・徳永 ああ、まあ……。

園田 あっ、あの一、雨宮さんにいただいた九条ホルダー、付けさせてもらってます。

雨宮 ああー……。

桃山 あっ、そう言えば、雨宮さんは付けてらっしゃらない……？

雨宮 ……すみません。

桃山 それネットショップで売ったらいいんじゃないですか？ 九条ホルダー。ねえ。

雨宮 ああー……まあ、あまり大っぴらにやりますと……（徳永に）ねえ……。

徳永 ああ、そうですねえ。

雨宮 また告発されたら大変ですし、どんなことで捕まるか、分かりませんからねえ。

桃山 ああー……そう言えば、九条Tシャツも着てらっしゃいませんものねえ、

いつもの。お付度（洗濯？）されてるとか？

一同 ああー……。

桃山 なんだか、ちよつと調子狂っちゃいますねー。フッフ……。

園田 あつ、なんか、すみません。

雨宮 いえいえ……。

徳永 あつ、木下さんじゃないですか？

木下、やって来る。

一同 ああー、木下さん！

木下 すみません、遅くなりまして……。

一同 お久しぶりです！ ご無沙汰してます。

桃山 もう、心配しましたよ。

木下 ホントすみません。

桃山 また逮捕されたのかと思いましたよ。

一同 ……。

桃山 冗談ですよ、冗談。

雨宮 そう言えば、あの時以来ですよ。お元気でした？

木下 すみません。ちよつと体調崩していたもので、きちんと御挨拶できずにい

まして……雨宮さんと徳永さんにはものすごい迷惑をおかけしてしまつて

……ホント、すみませんでした！

徳永 いやいやいや……。

雨宮 もう済んだことじゃないですか。

徳永 そうですよ。気にしないで下さい。

雨宮 誰だって、あんな風に脅されたら、ありもしないことしやべってしまいま

すよ。木下さんが悪いわけじゃないですよ。

木下 ホント、すみませんでした。

雨宮 ほら、顔上げて下さいよ。

桃山 そうよそうよ、こんな待ち合わせスポットで、ほら、みんな見てるわよ。

木下 あつ、すみません……。

徳永 まあね、今日はイヤなこと全部忘れて、パーツと食べて飲んで楽しみましたよう！

一同 そうですね、そうですね。

大きな爆発音がある。

一同 ええっ！

桃山 何？ 爆発？

園田 なんか、煙、上がってませんか？

一同 ああ！

雨宮 どこかしら？

徳永 あれ、有楽町マリオンじゃないですか？

一同 ええー……。

木下 ああ、確かにそのあたりみたいですね？

桃山 まさか、テロ？

一同 ええっ！

桃山 ちよつと、行ってみましょうよ。（現場へ向かう）

一同 （口々に）えっ！ ちよつと、桃山さん？ 危ないですよ！

一同、去る。

第十四場

刑事が出てくる。

刑事 休日の白昼に起こった有楽町マリオンの爆発は、死者七名、重軽傷者少なくとも四十八名の大惨事となりました。その後の捜査で、実行犯として四十代の男が逮捕され、案の定、これが爆弾による無差別テロであることが分かりました。彼は、特定の犯罪組織に属していたというわけではありません。イスラム過激派に触発された単独犯。ローンウルフテロってやつでした。当然、我々

警察はまったくのノーマークでした。

テロ等準備罪、それがあっても、肝心のテロは、防ぎようが、ありませんでした。

暗転。

了。